

『災害に強い街づくりを目指して!』

南海トラフ地震発生、大垣市で総合防災訓練開催される

「防災の日」(9月1日)を前に、南海トラフ巨大地震を想定した総合防災訓練が8月31日(日)、大垣市立南小学校(大垣市美和町)で行われ、市や消防、県警、自衛隊など関係32団体と地元住民ら約400人が参加した。メーン会場の同校グラウンドでは、国土交通省や自衛隊、県などの緊急車両も加わり、消火訓練や緊急搬送訓練、ガス管や上水道の応急復旧訓練などを実施した。同時に、倒壊した家屋から、救助犬による住民を助け出す訓練も含めて26項目の訓練と体験を行った。





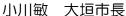


市民参加による消火訓練

ドッグスクールJOYや大垣消防組合による救助救出訓練









高橋滋 大垣市議会議長

終了式で、小川敏大垣市長は「今年8月は全国各地で地震や風水害など甚大な災害が多発した。先日の台風 11号では揖斐川が増水したが、徳山ダムなど適切な洪 水調節により、災害を未然に防ぐことができた。」と 前置きしたうえで、広島で発生した土砂災害に触れ 「今回の災害で、尊い人命が数多く失われ、避難指 示・勧告のあり方が、改めて課題として浮き彫りと なった。防災に従事する者として、住民の命を守るためには、空振りを恐れず、早めの避難指示・勧告を出 すよう、地域防災計画の見直しも含めて進めていきたい。『災害に強い街づくり』を、皆さんと連携して進 めていこう!」と参加者らを前に呼び掛けました。



台風11号による揖斐川の出水状況。(8月10日 19時頃) 揖斐大橋付近(岐阜県大垣市)

